

宴の存続につながり、披露宴の減少を食い止めることにもつながります。いかに披露宴の意義と意味を、自分自身が理解して、一人でも多くの方々に伝達出来るかが、大切であることをご理解ください。

披露宴とは…（披露宴の意味と意義）

披露宴とは、新郎新婦お二人が新しいスタートをする為に「今までお世話になった人」・「これからお世話になる人」・「これからお世話になるであろう人」に直接お互いを紹介し「披露」することで、「おかげさまで新しい家庭を持つことになりました。皆様とはこれまで以上のお付き合いをさせていただきます。」という気持ちが込められている大切なお披露目の機会です。

また披露宴には様々な意義があります。それは、①親の手から子供が離れ自立宣言をする場②人的財産の継承の場③本人が日ごろお世話になっている方々への感謝の場④親が我が子への想いを表現出来る場⑤人生三大セレモニーの中で本人が自覚できる唯一のセレモニーである⑥一人前の大人になったことを意味する⑦家督権の継承の第一歩でもあるなど様々なものがあると思いますがより絞るとどうなるでしょう。

私は披露宴の意義とは「3つの場」の提供と思っております。

①「実現の場」 realization ②「感謝の場」 thanks ③「継承の場」 successionの3つに要約されます。それぞれ詳しく触れると…

①実現の場

- ・親の子に対する夢（想い）の実現
- ・新婦の幼い時より心に描いてきた夢（想い）の実現

②感謝の場

- ・これまで多くの方々の力添えが在って新郎新婦が成長できたことに対する感謝
- ・親の友人や近所の方々の友好関係で今の生活や心の豊かさがあることに対する感謝
- ・親戚縁者のお互いの助け合いで今の生活や心の豊かさがあることに対する感謝
- ・会社の上司の理解で、現在の職場における評価とポジションを得られていることに対する感謝
- ・新郎新婦友人の友好関係のおかげで、現在の人格が形成されたことに対する感謝

～感謝の場である以上、当然今後の変わらぬお付き合いとご指導を頂きたいとお願いする訳ですから、「感謝の場＝継続の場」という事になります～

③継承の場

- 親の友人や昔からの親戚を呼ぶことは、親の人的財産を子供に伝える（継承）ということにもあります。結婚とは、家督相続の第一歩でもあります。相続はお金や物だけでなく、人という財産も受け継がなくてははいけません。親が子供の将来を願うからこそ、親の大切な方々もお招きしてお披露目する、つまり「人的財産の継承」が行われるのです。

それ以外でも…

- また、会社の上司を呼ぶことによって自分のことを覚えていただく。覚えていただくかどうかで実は出世が変わるのです。名も亡き人か、それとも名前を覚えていただけるせっかくの機会です。
- 近所の方を呼ぶことによって今後の社会生活が変わります。なぜなら日本の社会は、町内とか班とか部落などの制度が残っております。否が応でも日本で生活している以上この制度からは逃げられません。（都会は別なのですが…）
- 親戚縁者を招くことは、自分のルーツを知ることになります。

新郎新婦が親に尋ねてませんでしょうか？「この親戚の方は、どこの人？」とか「どんな関係？」「はじめて会った」などと。普通は、この言葉を聞くと「分からないから呼ぶことは無駄だ」とおもいがちです。が、実はその逆なのです。実はこのような方々を披露宴のときにお招きしなかったら、自分のルーツを知らないまま一生を終わってしまうことになってしまいます。しかし、この披露宴を機会にお声がけをすれば、席次表を家系図にすることが出来ます。何故そのようなことが重要なのか？結婚ということは家督権の継承の第一歩でもあります。

また、その後の人生には、法事・法要・親の死による葬儀など、避けては通れないものが多いのも人生です。もし自分の親の葬儀に、誰に「告げの案内」を出したらいいのか分からない、というようなことになったとしたら、亡くなった方がかわいそうです。何故なら、人は自分の功績や自分の遺伝子を残したいと思うものです（これは遺伝子の法則です）。その功績を残す具体的なものは、その方が築いた人間関係と、その築かれた人間関係の方々の記憶にしか残せないものなのです。ですから葬儀の時、喪主のお礼の言葉で「故人の為に、このようにかくも大勢の方々におこし頂き、さぞや故人も喜んでおることでしょう」と言われる事から考えても理解できると思います。本当の親孝行とはそういった物事も一つなのです。

また人生の祭事において多くの方々を招くという祭事は、「披露宴」と「葬儀」しかありません。以外にも、それ以外の物事には、それほど多くの方々にお声掛けさせていただくことやお呼びすることは無いのです。つまり今回呼ばなかったらいつ呼ぶのでしょうか？呼ぶことによって知るのです。呼ばないということは一生知らないか、親の葬儀のときに恥をかくかのどちらか、と断言しても過言ではないはずです。つまり親の友人を呼ぶことは、親孝行につながることもなる訳です。

- 不思議なことです、「昔は仲が良かったが、今は交友がなく疎遠になっている友達」なのに披露宴に呼んでいただけないと「みずくさい」とか「ま〜それほど深い付き合いでないからね〜」などと皮肉や文句とともとられる言葉を言われてしまいます。
- 結婚後の友人付き合いは、独身のときより不思議と狭まります。しかし、披露宴にお招きした友人とは、年賀状などの付き合いは、自分が怠らなければ付き合いはつながります。
- 自分自身が披露宴をしていない場合、友人の披露宴に呼ばれる確率が減ります。また呼ばれたとしても、「あの人の披露宴に呼ばれてないからね」とか「あの人は披露宴をしてないから呼ぶと悪いかな」とか「きっと何かの事情があって（一般的には金銭的な事情と思っている）披露宴を行わなかったのだらうから、今回お招きすることじたい迷惑かもしれない」などと思いながら声を掛けている場合もあるという現実もあります。これ自体、損な事ですよね。

披露宴に「お招きするか」「しないか」で、結婚後の人間関係の範囲を決めてしまうことにつながります。特にこれは本人の友人がいえます。大切なことは最近疎遠になっていても、自分から縁を切らないことが、自分の人生と今までの歩みを大切にすることにつながります。

これらのことから考えると、披露宴における最大のメリットは「人間関係の維持・発展」と「人的財産の継承」と言っても過言ではないと思います。

またこれらのメリットは、将来新郎新婦自身に最大限返ってくるものでもあります。

何故なら披露宴とは、「お招きする心」に「祝う心」が応えて「もてなす心」で素晴らしい和が広がります。披露宴には人の温かい心で満ち溢れていますし、「三つの心」そこから披露宴が発生しているのです。

つまり、披露宴は行わないより行った方が、結婚後の人間関係をより円滑にするものでも在りますし、一人でも多くの方々をお招きして「自分たちの感謝の気持ち」をお伝えし、「今後自分たちが幸せになれる為に、列席者の方々の胸を借りるような形で、今後のお力添えのお願い」をすることにより、より大きな幸せが訪れるはずです。

「実現の場」「感謝の場」「継承の場」の「三つの場」という素晴らしい意義と、「お招きする心」「祝う心」「もてなす心」の「三つの心」が織り成す、人の温かい心に満ち溢れたもの、それが披露宴です。

日本人の心

日本文化の中では様々な「付き合い」というものがありますが、それらの中に披露宴もあります。ちなみに皆さんは古く日本でいわれている「付き合い」とはご存知ですか？

よく言葉で「村八分」という言葉がありますが、その意味はご存知でしょうか？

村八分（むらはちぶ）とは、日本の村落でおこなわれた共同生活上の慣行や規則をおかした者への制裁の1種で、制裁は村寄合の場で決定され、絶交によって村の中での付き合いをたたれまし